



# さとぶん通信

株式会社北海道新聞 佐藤販売所  
佐藤 優憲  
札幌市西区八軒五条西 1-1-4  
フリーダイヤル 0120-615-701  
TEL:611-5701 FAX:643-4347

## どうしん記事活用で買い物♪

### 黄色いリンゴ

#### 多汁で糖度高く

黄色いリンゴが増えている理由について、後志農業改良普及センター北後志支所の黒川晃次支所長は「赤いリンゴに必要な作業が必要なく、省力化できることが大きい」と説明する。  
リンゴは日の当たる面が赤く色づく。全体的に色がつかないと商



品価値が落ちるため、収穫前には一つ一つの実を確認し、覆っている葉を取り除く。また、実を回転させて、太陽の光がまんべんなく当たるようにしなければならぬ。作業はすべて手作業で行う必要があるため、労力がかかる。生産者の高齢化や後継者不足で、手間のかからない黄色い品種を選ぶ傾向が強まっているという。  
また、品種改良でトキのように多汁で糖度が高い「日本の消費者の嗜好に合った品種が増えてきたことも大きい」（黒川支所長）。  
生産者にとっては、作業を省力化でき、味も良いという一石二鳥の黄色いリンゴだが、今後の普及に向けては消費者にいかにか浸透させていくかが課題だ。特に果菜類は「おいしい赤」というイメージが強く、スイカやサクランボなどでも黄色い品種はあるものの少数派だ。黒川支所長は「まずは大勢の人に食べてもらい、黄色いリンゴの味よさを知ってもらうことが鍵」と話す。

↑八百屋で購入したリンゴです。梨のような見た目です。ちょっと赤い部分があるものもあります。

← 10月22日朝刊の「食の大地」から抜粋。お店で黄色いリンゴを見つけたときに思わずハッとしました。

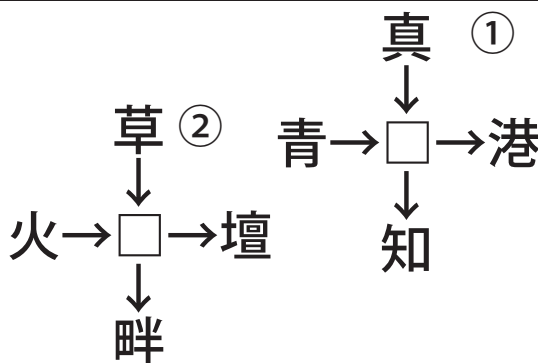
いつも北海道新聞をご愛読くださり、誠にありがとうございます。とうとう札幌市内で雪が積もったり、もう冬の寒さですね。私の家は、灯油代節約の為に毛布をそろそろ出そうと思います。

ちょっと前ですが、10月22日朝刊掲載(裏面参照)の「食の大地」はご覧いただけましたでしょうか。余市で生産されている黄色いリンゴ「トキ」について書かれていました。この品種は多汁で糖度が高いと書いてあり、最近リンゴを食べる機会が多い我が家は気になって記事を読んでいたのです。そのリンゴを先日、八百屋をされているお客様の所に伺った時に見つけまして、早速購入しました。

果汁たっぷりでシャキシャキとした、梨に近い食感で、とってもおいしいです。スーパーでも黄色いリンゴをよく見るようになりました。皆さまもぜひ一度お試し下さい。

(佐藤 まさのり 優憲)

答えは次回！お楽しみに！  
前回の答え ①成 ②理



漢字クイズ！  
□に文字を入れて  
二字熟語を完成させよう！

### おいしかった、後に立った記事

(2013年10月20日掲載)

なみつき」というブランドも一緒に紹介されていました。そちらも見つけ次第食べてみたいと思います。急がない

表面で紹介したりリンゴの話です。七飯町の「な」と句が終わりそうですが…。

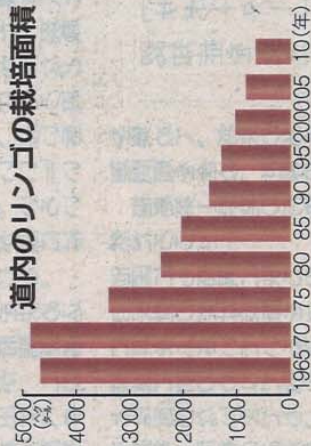
# 黄色いりんご 一石一鳥

「今年は春先の低温で開花が遅れた上に、夏の少雨で小振りですが味は良い。まずは食べてみてください」。後志管内余市町の京谷一博さん(64)は黄色いりんご「トキ」を収穫してくれた。余市は黄色で、一部がほんのりピンクに色づいている。一口かじると果汁たっぷりで甘さも十分。京谷さんは「見たえも、味も良い」と大鼓判を押す。

### 「トキ」生産推進

「トキ」は、日本のりんごを代表する「ふじ」と黄色いりんごの「王林」を掛け合わせた品種で青森県で生まれ、2004年に品種登録された。寒さの厳しい道内では日の当たる面が本州よりも強くピンクに色づく。余市では10月中旬から収穫が始まり、食べ頃は2〜3か月間という。

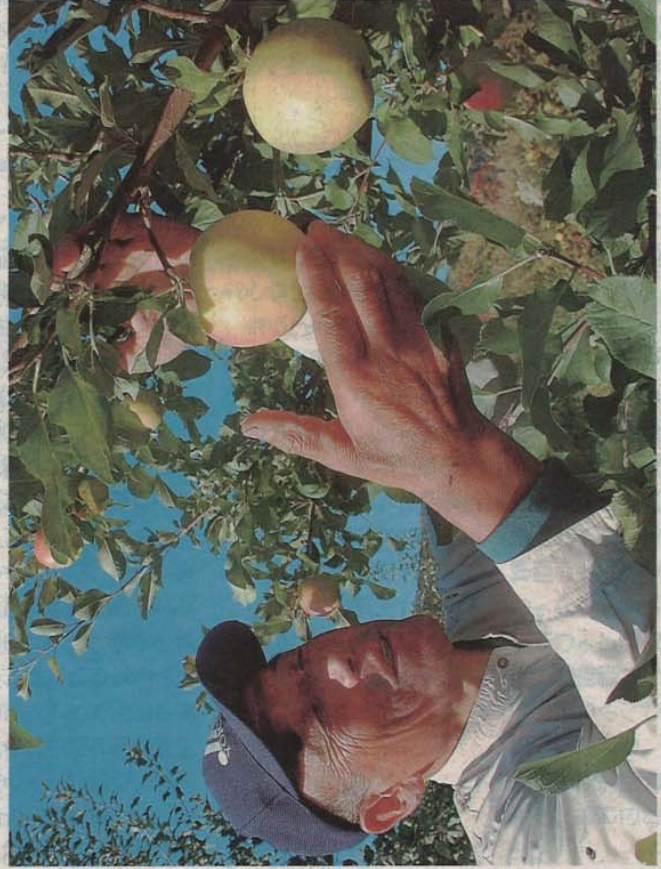
余市町りんご生産出荷組合では、毎年冬に生産者が集まる。そこで産地として推進する品種を決めており、トキは5年ほど前に選ばれた。りんごは植えてから3年程度たってから実をつけ、本格的に出荷するにはさらに数年かか



美の秋を迎え、道産りんごが、直売所や小売店の店頭に並ぶようになった。りんごといふと赤いイメージが強いが、近年、黄色いりんごの存在感が高まっている。味がよい品種が増えていることに加え、赤い品種と比較して栽培に手間がかからないのが理由だ。関係者は「消費量が減少しているりんごの復活につながるは」と期待している。

(須藤幸恵)

## 消費復活へ 期待背に作付け増



余市町内で栽培が増えている「トキ」を手に取る京谷一博さん

る。今のところ、余市町内での出荷量は少量だが、これから木の成長とともに増える見通しだ。

道によると、道内のりんご栽培は1969年の5050haほどで、2010年は646haまで減少した。冷害や価格低迷などで産業者が相次いだり、より収益性の高い果物を栽培する人が増えたためとみられている。生産者の高齢化や後継者不足も進んでいる。

道内で栽培されているりんごの品種は「つがる」が最も多い。「ふじ」「レッドゴールド」「ハックナイン」「あかね」「王林」と赤い品種が続ぎ、黄色い「王林」はその次に少数派だ。

ただ、余市の作付けに占める黄

色い品種の割合は増えている。10年度に品種調査を行った570haのうち、黄色い品種は45haと全体の7.9%。5年前の05年度は700haのうち黄色は30haと全体の4.3%にすぎなかったことから、黄色い品種の比率は着実に伸びている。

### この記事で あなたの頭の体操!

☆社会：記事に出てくるりんごの、品種別の産地を調べてみよう!

### どうしん防犯情報

石狩市花川南地区、北区あいの里地区、また北区に隣接する地区でもタイヤ盗が連続発生しています。被害に遭った方々は、鍵がつかない車庫にタイヤを保管していました。被害防止のため、車庫のシャッターには必ず鍵をかけるよう心掛けましょう。(配信：北署) 西警察署連絡先(011-666-0110)